ウシウマの骨格

【所　在　地】鹿児島市城山町１－１　県立博物館
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 38 年６月 17 日

種子島で飼育されていた小型のウマの一種で，被毛，まえがみ，たてがみ，尾毛等はないか，または極めて少ない。これらの形態から，牛に似た馬の意味で，古来,「ウシウマ」と呼ばれていた。ウシウマの起源については，モンゴル馬の突然変異が固定したもの，欧州産，中東産，などの諸説があり，はっきりしたことはわかっていない。

ウシウマは，慶長の役（1597 年）に従軍した島津義弘が，朝鮮半島から十数頭持ち帰り，吉野牧場などで飼育されていた。種子島には 1683 年に数頭が移入され，江戸時代末頃には 60 頭あまりに増えたという。しかし，それ以降減少しはじめ，1800 年代末期には雄一頭を残すのみとなった。絶滅を危惧した種子島の豪農，田上七之助はこの一頭を買い取り，在来馬との交配を重ね，ウシウマを復活させた。その後再びウシウマは減少をたどり，昭和初期には十数頭になり，昭和６（1931）年には希少な動物として国の天然記念物に指定された。以来，系統は保たれてきたが，第二次世界大戦の勃発により，飼料不足や管理が行き届かなくなり，ついに昭和 21（1946）年６月に西之表市の安城牧場で飼われていた最後の一頭（第４田上号）も死に絶滅した。

現存するウシウマの骨格標本は２体のみで，県立博物館（第４田上号：県指定天然記念物）と西之表市種子島総合開発センター（第２平山号）にそれぞれ保管されている。